

## ウナギ産卵場生態調査

### IX. ウナギ捕獲類似水深における魚類相

°田和篤史・望岡典隆（九大院農）・張 成年・黒木洋明・高橋正知・  
岡崎 誠（水研セ中央水研）・加治俊二（水研セ南伊豆セ）・青山 潤・  
篠田 章・塚本勝巳（東大海洋研）

【目的】2008年に実施された水産庁開洋丸によるウナギ産卵場生態調査航海によって西マリアナ海嶺南部海域でウナギ親魚が捕獲された。ここでは当該海域の生物環境をとらえることを目的としてウナギ捕獲に用いた大型表中層トロールによって採集された魚類組成について報告する。

【方法】2008年開洋丸第2次航海（KY-08-2）による21曳網および同第4次航海（KY-08-4）による7曳網の計28曳網で得られた魚類を用いた。網の最大到達深度は174-490mで、300m以浅の曳網は13回、300m以深の曳網は5回であった。同定は日本産魚類検索（中坊2000）に従った。

【結果】採集された魚類の多くは中深層性魚種であり、その約50%以上をハダカイワシ科魚類が占めた。その他の中深層性魚類では、ヘラアナゴ科、シギウナギ科、ノコバウナギ科、ヨコエソ科、ムネエソ科、トカゲハダカ科、ホテイエソ科、ミツマタヤリウオ科、ハダカエソ科、ヤリエソ科、カブトウオ科、シマガツオ科、ムカシクロタチ、クロタチカマス科などであった。また、最大曳網水深が300mを超える曳網では、アカクジラウオダマシやオオトカゲハダカ、オニキンメ、シダアンコウ科などが採集され、300m以浅の曳網ではこれらはほとんど入網しなかった。また、台湾アイノコイワシやギンガメアジ、ムロアジ属など、表層遊泳性の魚類やトンプソンチョウチョウウオやフエツヤッコダイ属、ウナギギンポ属など沿岸性魚類の成魚も採集された。これらの中には生きた個体も含まれ、揚網時に浅い水深で入網したものと推測された。